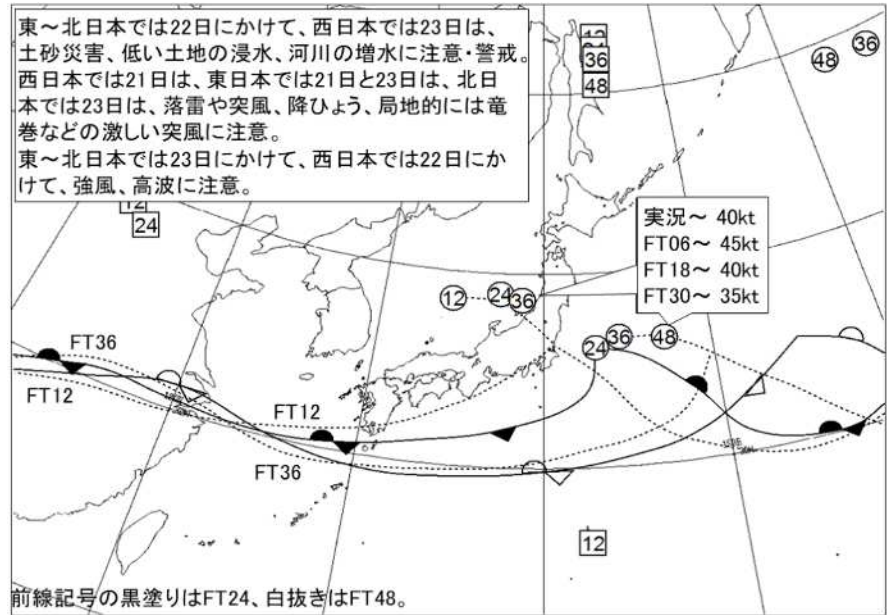


1. 実況上の着目点

- ① 500hPa5760m付近のトラフに対応し、閉塞した低気圧が日本海を東進。閉塞点は北陸地方付近にあって南東進。閉塞点からのびる寒冷前線は東～西日本を南下中。閉塞前線付近では雲バンドが明瞭で強い雨を観測。低気圧周辺で雷を検知。寒冷前線付近の雲域は散在しているが所々で強い雨を解析し雷を検知。
- ② ①の低気圧や前線周辺では気圧の傾きが大きくなり、西～東日本ではやや強い風や強い風が吹いて波が高くなり、しけている所がある。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の低気圧は、上空トラフが浅まりながら進むため、21日未明をピークに次第に衰弱するが、22日日中にかけて日本海を東進する。21日夜までには閉塞点から低気圧が発生して関東沖を東進し、前線は日本の南を南下する。東～北日本では低気圧や閉塞前線に向かって下層暖湿気が流れ込み、大気の状態が不安定となり激しい雨が降って大雨となる所がある。また、日本海と関東沖の低気圧は動きがやや遅く、22日にかけて低気圧周囲の湿った気流の影響で強い雨が断続的に降り、大雨となる所がある。東～北日本では22日にかけて、土砂災害や低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒。また、西～東日本では21日は、落雷や突風、降ひょうに注意。東日本の低気圧や前線付近では大気の状態が非常に不安定となるため、局地的に竜巻などの激しい突風にも注意。
- ② 華中～東シナ海では23日にかけて前線が停滞するが、22日からは500hPa 5820m付近の正渦度移流が強まって前線の活動が再び活発となり、西日本では雷を伴う激しい雨が降って大雨となる所がある。九州では23日は、土砂災害や低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷や突風に注意。
- ③ 23日は、500hPa 5700mで-12℃以下の寒気を伴うトラフが東～北日本を通過し、さらに500hPa 5580m付近で-18℃以下の寒気を伴う規模の小さな寒冷渦が北海道地方を通過する。上空寒気や日中の昇温により大気の状態が不安定となる。東～北日本では23日は、落雷や突風、急な強い雨に注意。
- ④ 2項①の前線や低気圧周辺では風が強く吹いて波が高くなり、しける所がある。東～北日本では23日にかけて、西日本では22日にかけて、強風や高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報等]

- ① 雨量(06時からの24時間)：東北120、北陸100mm。
- ② 波浪(明日まで)：東北・関東・北陸・近畿・中国4、北海道・伊豆諸島・東海・四国3m。

5. 全般気象解説情報発表の有無 発表の予定はない。